

文・写真 松澤美穂

# 地方 紀行 民鉄

## 能勢電鉄株式会社



目標は「人で賑わう、子どもが遊べる妙見の森」。有志の社員が続ける森林保全活動で、少しずつ、確実に目標に近づく。

### 場

所は妙見山の山頂近く。煙を噴き上げて豪快に燃える炎と読経する僧侶、それを囲むたくさんの人。目の前に広がる光景は、本日の目的、能勢電鉄が妙見山で行っている森林保全活動……の見学前に立ち寄った、関西唯一の霊場、能勢妙見山の「お火焚祭り」だ。

### あちらこちらで大忙し

「ご利益ありそうですね」。煙の向こうに聞こえる声は、阪急阪神ホールディングスの平野里美さん。能勢電鉄の森林保全活動は、阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献活動「阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクト」の一つということで、今日の活動を取材にきた平野さんも、能勢電鉄の白井一弘さん久保田圭吾さんの案内の下、ひとまず一緒に煙を浴びている。

炎を囲む人垣の中には、バックパックに「のせでんハイキングスタッフ」の布を付けた人の姿がチラホラ。能勢電鉄ではこの日「お火焚祭り」への参加を行程に組み込んだ「のせでん耐寒ハイキング」も開催中とか。能勢電鉄のハイキングは基本、無料で予約不要。集合場所に指定された駅前で行程表をもらっただけという気軽さから、「毎回500〜700人くらい、少なくとも200人くらいの参加があります」とのこと。今回の参加者は、さらに多めの750人というから、能勢電鉄の皆さんはあちらこちらで大忙しだ。燃え上がる炎に願いを書いた護摩木を投げ込んで、「お火焚祭り」のご祈願終了。いよ

いよ森林保全活動が行われている「妙見の森ふれあい広場」へ向かう。

### 子どもが遊べる妙見の森に

「お火焚祭り」に併せて冬期連休中の妙見の森リフトが稼働しているということで、「妙見の森ふれあい広場」まで、リフトに乗って下りていく。炎の近くでは気にならなかつた霰交じりの雪が吹き付け、思わずきゅっと縮こまる。それでも左右をよく見れば、リフト沿いの紫陽花や桜の枝に蕾が膨らむ。春の景色を想像しつつ、サラサラと枯葉に雪の落ちる音さえ聞こえる、今の静かな景色を楽しむ。

約12分で「妙見の森ふれあい広場」に到着。ちょうど昼の休憩に入った森林保全活動のリーダー林義浩さんに、休憩所で暖を取りつつ、参加理由を尋ねてみたら、「妙見の森をもっと人で賑わう、子どもが安心して遊べる山にしたいんです」とのこと。

すっかり取材態勢に入った平野さんが次々と質問を重ねてゆく。「森林保全活動への子どもの参加は?」「森林保全は少し危ないから。でも、別の形で子どもが妙見の森の自然に触れることができれば、とは思いますがね」「夏休み期間の小学生向け体験・学習プログラム『チャレンジ隊』の企画でなら、何かできるかもしれませんよ……。話題はいつしか森林保全活動から子どもの自然体験活動へ。会話のラリーに領きながら、新しい社会貢献活動が生まれるきっかけは、こういう会話にあるのかもしれないと、一人納得。

### 能勢電鉄 【のせでんてつ】

川西能勢口を始発駅に妙見口までをつなぐ妙見線と日生中央まで向かう日生線の2路線。さらに妙見山における妙見の森ケーブル、妙見の森リフトを運営。今年4月13日、開業100周年を迎える。



大迫力の炎の周りでは、能勢電鉄のスタッフが大忙し。





春になると桜が満開。妙見の森夜桜ライトアップも実施される。また、妙見の森エリア内の妙見の森パーベキューテラスには、家族やカップルで楽しめる行楽スポットもある。



斜面での作業は本格的。間伐の講習を受けたリーダーの指示で動く。

### 未来の景色は

昼の休憩が終わわり、本日午後の森林保全活動の現場に向かう。

案内されて歩き出した歩道は、冬場ということでも落ち葉が厚く積もり、所々に鹿のフンも落ちていて、まさに山道。足を滑らせないように、そろそろと進む。

活動中の参加者の姿を見つけたのは、歩道から外れた斜面の上。「お手伝いできることがあるかな」なんて気軽に考えていたのが、恥ずかしくなるくらい、本格的な間伐作業の真っ最中。確かに、子どもが参加するには少し危ない。

活動場所が見渡せる場所にたどり着くと、そこには既に先客の姿。小学校低学年と幼稚園くらいの兄弟が「めがねのおっちゃん、5分でもう1本!」「長靴のおっちゃんも頑張りや!」と、口々に声援を送っている。参加者の家族が見学しているのかと思つたら、たまたま居合わせただけという。なんとも人懐こいギャラリに、参加者たちも「5分は無理や」「おっちゃんだって、頑張ってるやろ」と楽しげに返答。急かされるように、次々と木を切り倒していく。

作業が行われた場所は、すっきり明るく視野が広がる。森林保全活動の魅力を「木を一本切るだけで、がらっと景色が変わる」と語った林さんの言葉が実感できる。

十分な間隔を空けて残された木は、太陽光をたっぷり浴びて育っていく。あのギャラリーの兄弟が大人になるころには、きっと妙

見の森は今とは違う景色を見せているはず。

### 20分で山から町へ

妙見の森を後にして、本日、最後に向かうのは多田神社。実は、能勢電鉄の沿線には、源氏由来の神社が多数点在。中でも多田神社は「清和源氏の祖、源満仲公を御祭神の1人とする大社」だという。

神主さん直々に境内をご案内いただく。「社の屋根の部材の削り方は……」「二つの紋は源氏の笹竜胆と徳川宗家の三つ葉葵です。この由来は……」「あれは唐獅子牡丹といって……」。何を尋ねても、流ちょうな解説が返ってくるのは、さすがの一言。

拜殿の裏手には木々に覆われた禁苔地の御神廟が広がり、住宅街にあるとは思えない静けさ。人影もまばらな境内の様子は由緒ある神社によく似合っていると思つけれど、「もっとたくさんの人にお参りに来てほしいです」とのこと。多田神社は多田駅から徒歩だと約20分。神主さんに話し掛ければ、神社にまつわるあれやこれやを聞けるかもしれない。

多田駅に戻り、始発駅の川西能勢口駅へ。向かう電車の車窓には、遠くまでぎっしりと建ち並んだ住宅。同じ電車が逆方向に走れば、20分程度で妙見の森を見上げるのどかな里山にたどり着くとは思えない。

たった20分がつくり出す大きな落差。大満喫の一日に、そろそろ足も疲れてきたけどどうしよう、もう一回、逆方向に乗ってみようか。



車窓からは建ち並んだ住宅が遠くまで見渡せる。



神主さんの解説を聞く平野さんと白井さん。